

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年1月

日本詩人クラブ 新年会

1月11日 午後3時より

会場 東京大学駒場キャンパス 交流ラウンジ（学生食堂3F）

会費 4,000円（当日、受付にて）



細野豊会長の新年挨拶
る合唱

出席者の方々によ

第21回 詩のサロン

1月9日 午後6時より

会場 日本詩人クラブ事務所

「高野悦子（岩波ホール前総支配人）と淀川長治の世界」

チャップリンDVD『黄金狂時代』観賞

参加費 500円

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年2月

日本詩人クラブ 2月例会（雪のため中止）

日時 2月8日（土） 14時～17時

会場 東京大学駒場キャンパス ファカルティセミナールーム

講演 「ふるさと村野四郎の詩の背景ー村野四郎記念館の10年ー」 講師 馬場治子氏

講演 「わたしの村野四郎と「詩」」 講師 菊田守

詩朗読 華原倫子氏 畠山隆幸氏

会員・会友 無料 一般500円

例会終了後、同会場にて交流会（懇親会） 会費3,000円

第22回 詩のサロン

日時 2月13日（木） 18時～20時

会場 日本詩人クラブ事務所

蔵原伸二郎の世界一詩集「岩魚」、評論集「東洋の詩魂」より

中村泰三の世界一詩集「北緯38度線」より

参加費 500円

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年3月

日本詩人クラブ 3月例会

日時 3月8日(土) 14時～17時

会場 東京大学駒場キャンパス ファカルティセミナールーム

講演 「わたしの詩作法・言葉の固有性と普遍性ー方言の魅力」 講師 福司満氏(秋田県)

講演 「パウル・ツェランと石原吉郎」 講師 富岡悦子氏

詩朗読 太田葉子氏(大垣市) 関中子氏(横浜市)

会員・会友無料 一般500円

例会終了後、同会場で交流会(懇親会) 会費3,000円





福司満氏

富岡悦子氏

第23回 詩のサロン

日時 3月13日(木) 18時～20時

会場 日本詩人クラブ事務所

参加者の震災詩の朗読と合評(希望者は作品コピー25部ご持参下さい)

比留間一成氏のワンポイント詩のレッスン

参加費 500円





この日は低気圧の通過で、夕方から風雨が強まりました。それでも、19名の方が集い、和やかなサロン

となりました。東日本大震災から、この春で3年になります。サロンを始める前に、まず、参加者全員で犠牲者の方々に黙祷を捧げました。

冒頭は、サロンの顧問でもいらっしゃる前会長の比留間一成氏による詩のワンポイントレッスン。レッスン

というよりは、氏の詩、もとい「うた」に対しての小粋な話でしたね。そして二つの自作品の朗読。ともに、柔らかな雰囲気でした。

その後、参加者が持ち寄った震災詩の朗読会です。一口に震災詩といっても、実にさまざまです。震災

というものを捉える各人の真摯な思いが伝わってきました。皆さんの作品に触れ、あらためて「言葉」と

いうものの大切さを考えた次第です。震災というものを、どのように「作品」に昇華させていくか。難しい

問いだと思います。

(長谷川 忍・記)

詩の学校

日時 3月23日(日) 14時～17時

会場 日本詩人クラブ事務所

① 発声練習 ② 参加者の朗読

講師 琴天音

②音楽と朗読 ・ 暗唱の朗読 ・ 朗詠 ・ 詩劇 ・ 群読 講師 小野浩

受講料 500円（3回参加 1,500円）



琴天音氏

小野浩氏

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年4月

第47回日本詩人クラブ賞

金堀則夫詩集『畦放』

第24回日本詩人クラブ新人賞

中島真悠子詩集『錦繡植物園』

第14回日本詩人クラブ詩界賞

直・阿部謹也への系譜』
坂本正博著『金子光晴「寂しさの歌」の継承ー金井

贈呈式

日 時 4月12日(土) 14:00～16:50

場 所 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEEレクチャーホール
京王井の頭線駒場東大前東口下車1分

記念パーティー 17:00より 同ホール隣接会場MMホール 会費
5,000円



金堀則夫氏



中島真悠子氏



坂本正博氏

当日は、穏やかな好天に恵られました。

川中子義勝理事長による開会の言葉、細野豊会長による挨拶により贈呈式が開会されました。高

山利三郎三賞担当理事より経過報告の後、各選考委員長（麻生直子氏、黒羽英二氏、佐久間隆史

氏）より経過報告。賞の贈呈が行われました。



倉橋健一氏

一色真理氏



北畑光男氏

受賞者の紹介では、倉橋健一氏（金堀則夫詩集）、一色真理氏（中島真悠子詩集）、北畑光男氏

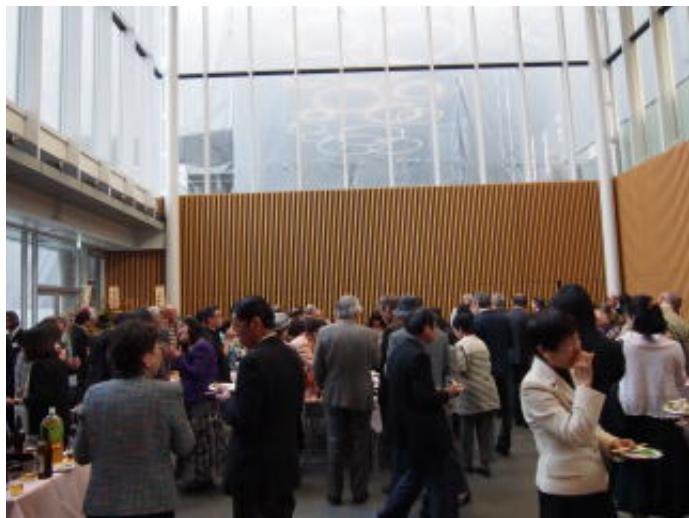
（坂本正博著書）よりお言葉を頂戴いたしました。それぞれに、受賞者への心遣いに溢れた好スピー

チだったと思います。

受賞者お二方の受賞詩集の朗読に続き、花束の贈呈。受賞者お三方の挨拶です。受賞の喜びを

それぞれの思いで語られていました。北岡淳子理事による閉会の言葉で、無事、贈呈式が終了。





懇親パーティー

懇親パーティーは、贈呈会場に隣接したMMホールにて始まりました。

比留間一成氏による開会の挨拶、ご来賓として日本現代詩人会理事長の北畑光男氏よりお言葉を

頂きました。受賞者三氏のお祝いの言葉を、八木幹夫氏（金堀則夫氏）、光富郁埜氏（中島真悠子

氏）、神品芳夫氏（坂本正博氏）より頂戴しました。清水茂氏の乾杯により、パーティーに入りました。

途中、岡本勝人氏、五十嵐勉氏、前原正治氏からも、お祝いの言葉を頂戴しました。盛況でしたね。

和やかなパーティーとなりました。

宴たけなわとなったところで、川中子理事長より閉会の挨拶。

金堀則夫さん、中島真悠子さん、坂本正博さん、ご受賞おめでとうございます。

（長谷川忍 ・ 記）

第24回 詩のサロン

日 時 4月10日（木）18：00～20：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の鑑賞と朗読会

* 笈楨二の世界一詩集『氣がのらぬ外出』、詩集『海が沸く』より

* 天彦五男の世界一詩集『鴉とレモン』、詩集『風針』より

参加費500円





今月は、歴代の会長を務められた、笈楨二、天彦五男、両氏の詩作品鑑賞を中心としたサロンとなりま

した。笈楨二全詩集(待望社)、天彦五男詩全集(土曜美術社出版販売)からのセレクト作品です。ささきひ

ろし氏、鈴切幸子氏による両詩人の紹介と解説、そして参加者諸氏によるセレクト作品の朗読。作品を声

に出し読むことであらためて、両詩人の、思想や、言葉のリズムを再確認したように思います。

この日は、笈楨二婦人の渡邊順子氏にもご参加頂きました。笈氏との思い出話をユーモアを込め語って

下さいました。またサロンの顧問でいらっしゃる比留間一成氏の、両氏の思い出話も感慨深いものがあり

ました。

(長谷川忍・記)

詩の学校

日 時 4月27日(日) 14:00～17:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

①鈴木亨を通した四季の時代 講師 比留間一成氏

②参加者の朗読 酒木裕次郎氏 鈴木昌子氏

③群読 指導 琴天音氏 小野浩氏

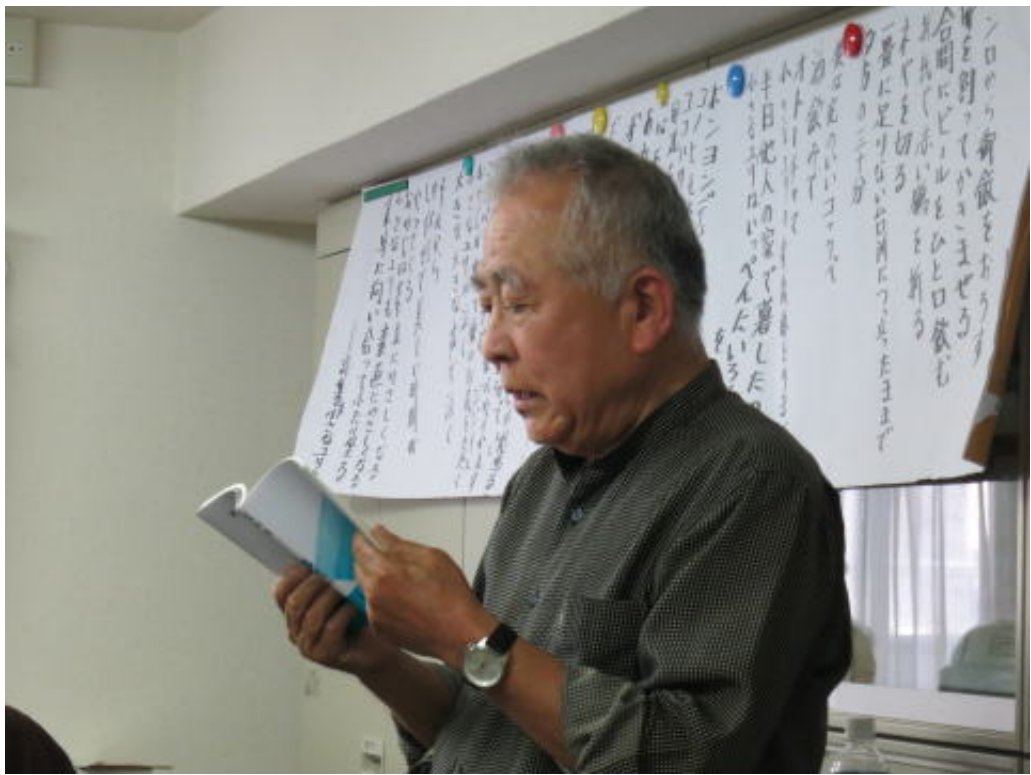
受講料 1回500円（3回参加1,500円）



比留間一成氏

き
は
て、

比留間一成先生につきましては、テーマ「鈴木亨を通した四季の時代」にてご講演頂
きました。先生のご経験を通してテーマについて貴重なお話を伺えました。参加者の皆様
熱心に聞いておられました。ご講演によって、参加者の皆様のこれからの詩作につい
て、さらに良い作品を書いていきたいという思いが会場に広がりました。



酒木裕次郎氏



鈴木昌子氏

参加者の朗読は、酒木裕次郎様と鈴木昌子様です。すばらしい朗読に皆様は静かに耳を

傾けておられました。



琴天音様と小野浩様による、群読「夕方の三十分（黒田三郎）」指導の様子の写真です。琴

天音様による体操と発声の講義中の様子です。発声方法などについて参加者の皆様は熱心

に指導を受け練習されていました。群読も練習を繰り返していくうちに少しずつまとまりが出て

きました。小野浩様の熱心な指導により、皆様熱心に練習されておられました。練習するたび

に上手くなっていくような様子でした。

（森 雪拾 ・ 記）

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年5月

第24回 詩のサロン

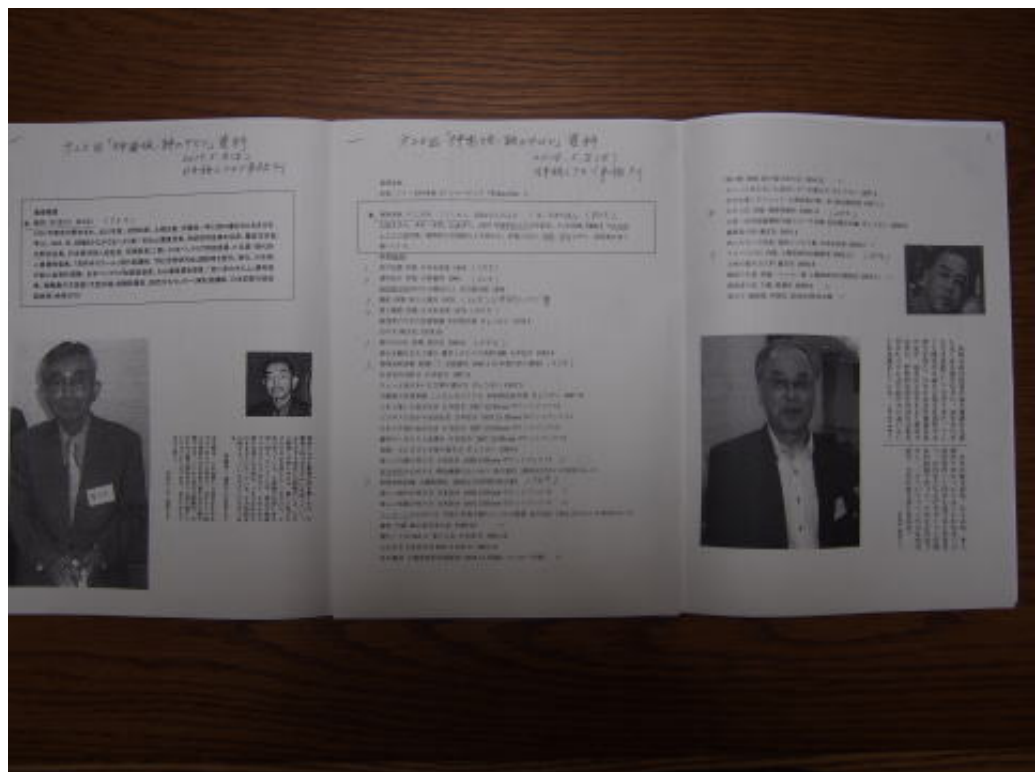
日 時 5月8日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の朗読と観賞会 *西岡光秋の世界一詩集「鵜匠」、詩集「菊のわかれ」より

*菊田守の世界一詩集「かなかな」、詩集「天の虫」より

参加費 500円



お二方の代表詩集より抜粋した詩作品を、当日の参加者諸氏の朗読であらためて味わいました。西岡光秋氏の作品からは、「鵜匠」「老女のボン」「海辺の告発」。菊田守氏の作品

からは、

「天の虫」「敵」「糞虫賛」「泥ん子」「天秤棒を担いで」「友情」。



当日は、西岡光秋氏にもご参加頂き、氏より自らの詩人としての遍歴を語って頂きました。国家

の権力機構の先端で長く働きながら、詩作を通して、詩人として人間と社会を鋭く見据えてこられた。

氏のこんなお話が印象に残りました。「詩は、「私」を通し人生を垣間見るものではないか。そういう

意味で、自分は観念的な詩は読みたくはない」。氏の骨太さを感じた次第です。

(長谷川忍・記)

第19回 関西大会

日 時 5月10日(土) 13:30(受付13:00~)

懇親会 17:00~

会 場 大阪市「ホテルアウリーナ大阪」

〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 TEL 06-6772-1441

参加費 会員・会友 500円 一般 1,000円 懇親会 7,000円

第1部(司会 北原千代)

開会のことば 森田 進

会長あいさつ 細野 豊

理事長報告・役員紹介 川中子 義勝

☆今年度日本詩人クラブ賞・同新人賞受賞者の詩の朗読

第47回日本詩人クラブ賞 金堀則夫詩集『畦放』(思潮社)

第24回日本詩人クラブ新人賞 中島真悠子詩集『錦繡植物園』(土曜美術社出版販売)

☆講演 演題「私の詩作法一発見と飛躍」 講師 高階杞一氏

第2部（司会 江口節）

☆「物故名誉会員島田陽子の詩の世界を語り、うたう」 進行・江口 節

＊「島田陽子の詩の世界～のびやかな言語感覚、その詩的背景をめぐって」 講師 田中国男氏

＊「島田陽子の詩をうたう」

① 詩の朗読 詩集『わたしが失ったのは』『帯に恨みは』遺稿集『じいさん ばあさん』より

「叢生」同人(曾我部昭美 秋野光子 藤谷恵一郎 福岡公子)

② 組曲『おおさかグラフィティ～〈大阪ことばあそびうた〉』（作曲・前田憲男）より

演奏曲「いうやんか」「けったいなひと」「ややこ」「あいうえおおおさかくいだおれ」

男声カルテット〈ワイルド・ローバーズ〉

☆自作詩朗読（進行・清水弘子）

①池田順子・鹿児島 ②岡崎 葉・和歌山 ③川上明日夫・福井 ④里中智沙・愛知

⑤鷹取美保子・福岡 ⑥日笠芙美子・岡山

☆次回山梨大会へのお誘い 古屋久昭氏（山梨県詩人会会長）

閉会のことば 金堀則夫担当理事

懇親会（司会 神田さよ 武西良和）

開会のことば 山口賀代子

挨拶 北岡淳子理事

乾杯 瀬崎 祐（日本現代詩人会理事）

アトラクション 男声カルテット〈ワイルド・ローバーズ〉

演奏曲 「Mr B a s s Man」 「My Foolish」 「1960年代歌謡
ポップスメドレー」

「Stand Alone～坂の上の雲より」 「夢で逢いましょ
う」

スピーチ

閉会のことば 横田英子（前担当理事）

《大会実行委員》 金堀則夫 江口節 川上明日夫 神田さよ 岸田裕史 北原千代 紫
野京子 清水弘子

瀬崎祐 たかとう匡子 武西良和 司茜 永井ますみ 名古きよ
え 橋爪さち子 原圭治

藤井雅人 牧田久未 美濃千鶴 村田辰夫 森田進 薬師川虹一
山口賀代子 横田英子



森田進 大会実行委員長（開会のことば）



細野豊会長（挨拶）
（理事長報告・役員紹介）

川中子義勝理事長



北原千代氏（第1部司会）



金堀則夫氏（三賞受賞者朗読）



中島真悠子氏（三賞受賞者朗読）



高階杞一氏（第1部講演） 演題「わたしの詩作法一発見と飛躍」



江口節氏（第2部司会）



田中国男氏（第2部講師）

演題「島田陽子の詩の世界～のびやかな言語感覚、その詩的背景をめぐって」



曾我部昭美氏（朗読「叢生」同人）
読「叢生」同人）

秋野光子氏（朗





藤谷恵一郎氏（朗読「叢生」同人）
読「叢生」同人）

福岡公子氏（朗



男声カルテット ワイルド・ローバーズ
組曲『おおさかグラフィティ〜〈大阪ことばあそびうた〉』

より
』



清水弘子氏（自作詩朗読・進行）



池田順子氏（鹿児島）



岡崎葉氏（和歌山）



川上明日夫氏（福井）



里中智沙氏（愛知）



鷹取美保子氏（福岡）



日笠芙美子氏（岡山）



古屋久昭氏（山梨県詩人協会会長）



金堀則夫大会担当理事（閉会のことば）



山口賀代子氏(懇親会 開会のことば)



北岡淳子理事（懇親会 挨拶）
氏（乾杯）

瀬崎祐



武西良和氏 神田さよ氏（懇親会司会）



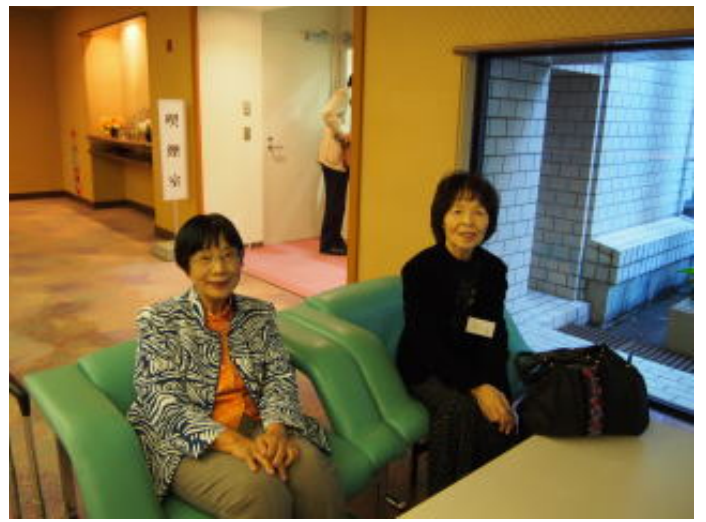
横田英子氏（懇親会 閉会のことば）











詩の学校

日 時 5月25日(日) 14:00～17:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

①群読 ②山之口獏の生と死 講師 狩野敏也

参加費 500円

「山之口獏の生と詩」について、貴重な画像や録音を使用しながら、講師の体験をもとに、
様々なエピソードとその人柄や作品などについてお話いただきました。大変興味深い
内容
に、理解を深めることができました。

作品朗読は、白石智彦、宮尾壽理子、両氏です。心に響く朗読に、参加者の皆さまは、
熱心に耳を傾けていました。

(森 雪拾・記)

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年6月

第26回 詩のサロン

日 時 6月12日 (木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の朗読と観賞会 昨年度逝去の、吉野弘、まど・みちお、辻井喬氏の作品の鑑賞

参加費 500円





6月は、近年他界された三名の詩人についての作品鑑賞でした。吉野弘、まど・みちお、辻井喬、

各氏です。参加者の方々が、テキストに記載されている詩人の代表作品を朗読し、感想を述べ合い

ます。まどさんの詩は、短く、リズムもよいので、参加者の皆さん、それぞれ口ずさむような朗読とな

りました。

吉野弘作品に人気が集まったようです。「奈々子に」「祝婚歌」「虹の足」「夕やけ」、とくに、参加者

のおひとりから出た「祝婚歌」と宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の比較論は、他の参加者の意見とも相

まり、熱を帯びました。

(長谷川 忍・記)

第65回 総会

日 時 6月14日(土) 14:00開催

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス

次 第

司会 中村吾郎 理事

1 開会の言葉

中村吾郎 理事

2 資格確認

川中子義勝 理事長

3 会長挨拶

細野豊 会長

4 物故詩人への黙祷

平石三千夫、布留川洋子、水野谷世界、桑原拝啓、鈴木孝、

瀬戸文一、木下幸三、和田健、卜部昭二、品川美智子、伊勢山峻、

藤波透、山本龍生、下村和子の会員各氏。

5 議長団選出・挨拶

6 議題

(1) 事業実績

(ア) 概況

川中子義勝 理事長

(イ) 法人

川中子義勝 理事長

(ウ) 例会

鈴木豊志夫 理事

(エ) 詩界（研究会）・ホームページ

長谷川忍 理事

(オ) 第47回日本詩人クラブ賞

高山利三郎 理事

第24回日本詩人クラブ新人賞

第14回日本詩人クラブ詩界賞

(カ) 広報（詩界通信）

村尾イミ子 理事

(キ) 国際交流

谷口ちかえ 理事

(ク) 関西大会

金掘則夫 理事

(ケ) 詩の学校

庄司進 理事

(コ) 詩のサロン

ささきひろし 理事

(サ) 入会

北岡淳子 理事

(シ) その他

川中子義勝 理事長

(2) 平成25年度決算報告

黒羽由紀子 理事

(3) 平成25年度監査報告

狩野敏也 監事

(4) 規約の改正について(案)

川中子義勝 理事長

(5) 平成26年度事業計画(案)

川中子義勝 理事長

(6) 平成26年度予算(案)

黒羽由紀子 理事

(7) 会員の意見・消息

川中子義勝 理事長

7 議長団解任・挨拶

8 名誉会員の顕彰について(案)

川中子義勝 理事長

同上 顕彰 富永覚梁氏、丸山勝久氏。

細野豊 会長

9 永年会員の顕彰

細野豊 会長

大木てるよ氏、岡美沙子氏、笠井剛氏、禿慶子氏、佐藤鶴磨氏、

野澤俊雄氏、荒川清彦氏、いちじ・よしあき氏、植野正治氏、

金子秀夫氏、たなかけんじ氏、野老比左子氏、中原道夫氏。

10 海外客員会員の推挙・承認(案)

川中子義勝 理事長

11 閉会の言葉

中井ひさ子 理事





細野豊会長（挨拶）



川中子義勝理事長（事業報告）



議長団（林哲也氏・昼間初美氏）



総会風景



名誉会員の顕彰 富永覚梁氏



永年会員の顕彰 禿慶子氏



永年会員の顕彰 佐藤鶴磨氏



永年会員の顕彰 野澤俊雄氏



永年会員の顕彰 野老比左子氏



永年会員の顕彰 中原道夫氏



清水茂 ・ 前会長（懇親会挨拶）



第17回 詩書画展

日 時 6月23日（月） ～ 6月28日（土） 11：00～18：30 *最終日は14：00まで

場 所 地球堂ギャラリー

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-6 銀栄ビル2F

TEL 03-3572-4811

朗読会 (I) お話と朗読 6月25日（水） 15：00～16：30 ねじめ正一氏
他 会費 1,000円

(II) 朗読 6月28日（土） 14：00～15：30 会費
無料

参加会員

天野英、石川厚志、今泉協子、 小川英晴、奥沢拓、小野ちとせ、小野浩、金子秀夫、禿
慶子、

川崎芳枝、川中子義勝、北岡淳子、北村朱美、くろこようこ、黒羽由紀子、剣持昭義、琴
天音、

ささきひろし、清水茂、庄司進、鈴木豊志夫、鈴木昌子、鈴切幸子、高山利三郎、竹内美
智代、

谷口ちかえ、中井ひさ子、永方ゆか、中原道夫、中村吾郎、名古きよえ、羽切美代子、橋
本由紀子、

長谷川忍、花潜幸、原田道子、比留間一成、昼間初美、深沢朝子、細野豊、増田朱躬、光
冨郁埜、

村尾イミ子、山口敦子、山本みち子、柳田光紀、吉田ゆき子、渡ひろこ、各氏。



地球堂ギャラリー

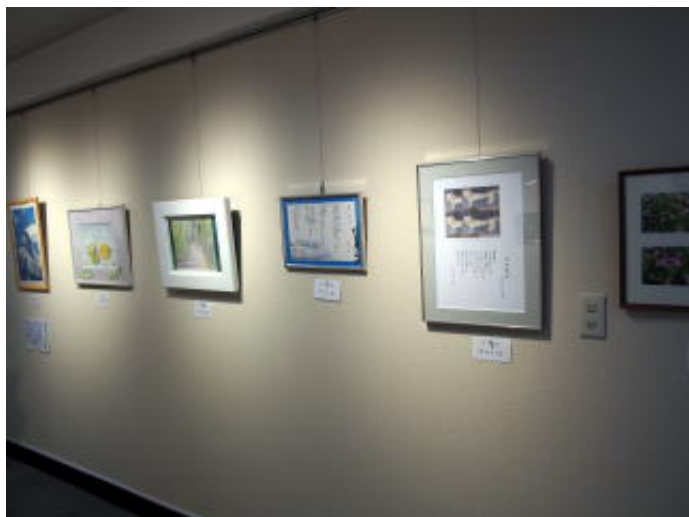
.....

展示作品









.....

会員による朗読



.....



小川英晴理事（左）、ねじめ正一氏（右）

6月23日（月）より6月28日（土）まで、東京、銀座にある地球堂ギャラリーにて第17回詩書画展

が開催されました。前回までは8月に開催されていましたが、昨今の温暖化による猛暑を考慮しまし

て、今回は2カ月早めた6月の開催となりました。参加者は49名。

6月25日（水）と6月28日（土）に、会員による朗読会。また、6月25日（水）には、詩人で直木賞作

家でもいらっしゃるねじめ正一氏のトーク会が行われました。自らの創作遍歴を、ユーモアを込め語っ

て下さいました。とくに、話題となった小説『荒地の恋』の創作秘話ともいえるお話は、感慨深いものが

ありました。

会期中、200名を超える方々にご来場頂きました。この場を借りお礼を申し上げます。

（長谷川 忍・記）

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年7月

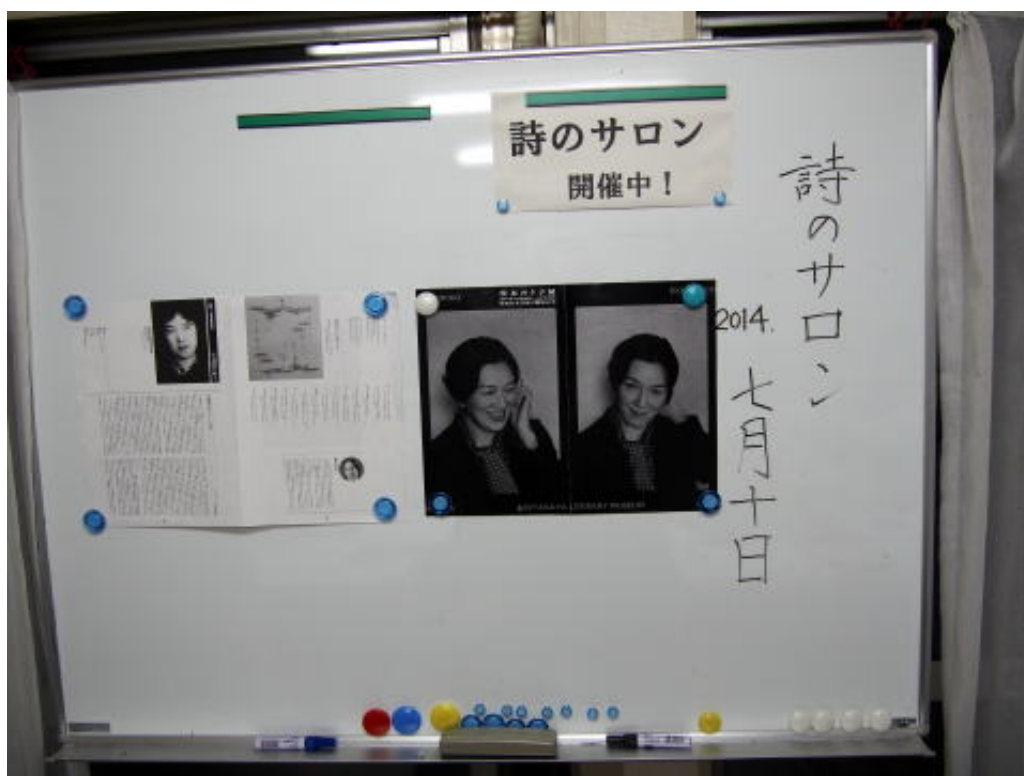
第27回 詩のサロン

日 時 7月10日 (木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の朗読と観賞会 女流詩人（与謝野晶子、茨木のり子、新川和江等）の作品の鑑賞

参加費 500円





鈴木昌子氏

ささきひろし氏

今月の比留間一成氏によるワンポイントレッスンでは、氏の戦争体験をテーマにお話を頂きました。

来月に控えた終戦記念日とも相まり、聞き手の側も気持ちが高まっていきます。その後、鈴木昌子、

ささきひろし、両氏より、戦争に題材をとった自作詩を朗読して頂きました。鈴木氏は「舞鶴」、ささき氏

は「永遠の飛行兵」。両作品とも、真摯さと苦みが伴っていたように思います。



7月の作品鑑賞と朗読は、4名の女流詩人にスポットが当てられました。与謝野晶子、茨木のり子、

高田敏子、新川和江、各氏です。4氏の代表作品を読み比べていくことで、あらためてそれぞれの個性が

性が浮き彫りになっていきます。参加者が実際に作品を朗読することで、もとい声に出すことで、作品

のリズムや癖が体感できるのではないか。このサロンのひとつの醍醐味かもしれません。

(長谷川 忍・記)

7月 例会

日 時 7月12日 (土) 14:00～17:00

場 所 東大駒場 ファカルティハウス・セミナールーム

東大正門左折、正門より徒歩2分。レストラン・ルヴェソンヴェール管理施設

同会場にて例会終了後・懇親会 17:00～19:00 会費
3,000円

詩朗読 群読 小野浩・琴天音・庄司進各氏ほか多数の会員が挑戦します。

朗読作品は黒田三郎詩「夕方の三十分」を予定しています。

*群読される方は13:00時までに集合して下さい。13:30からリハーサルを開始します。

小講演 「カリブの詩と詩人たち」(仮題) 講師 谷口ちかえ氏

講演 「宮澤賢治のデクノボへの乖離なき遍歴―挫折そして慚愧―」 講師
冨永覚梁氏



司会 安川登紀子氏（左）、長尾雅樹氏（右）



例会風景



会員、会友有志による群読（黒田三郎作「夕方の三十分」）



谷口ちかえ氏
小講演「カリブの詩と詩人たち」



富永覚梁氏

講演「宮澤賢治へのデクノボへの乖離なき遍歴―挫折そして慚愧」

第8期 詩の学校（前期）

日 時 7月26日（土） 14:00～16:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

開校式、校長参加 講義「詩の内容」 講師 北畑光男

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講 2,000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉県花見川区畑町1799-4 TEL・FAX043-274-3263（携帯090-1804-2276）

講師は北畑光男先生にて、テーマは「詩作品を参考にしながら、詩のリズムや構成について

考察する」でした。

島崎藤村、宮澤賢治、萩原朔太郎、村上昭夫、川崎洋、新川和江、その他多くの詩人とその

作品について、講師による朗読の後、参加者の感想や意見などをやり取りされながら、それぞれ

の詩のリズムと構成について学ぶとともに、詩人の人生を踏まえての奥の深い内容について、分

かりやすく魅力的にお話くださいました。

(森雪拾・記)

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年8月

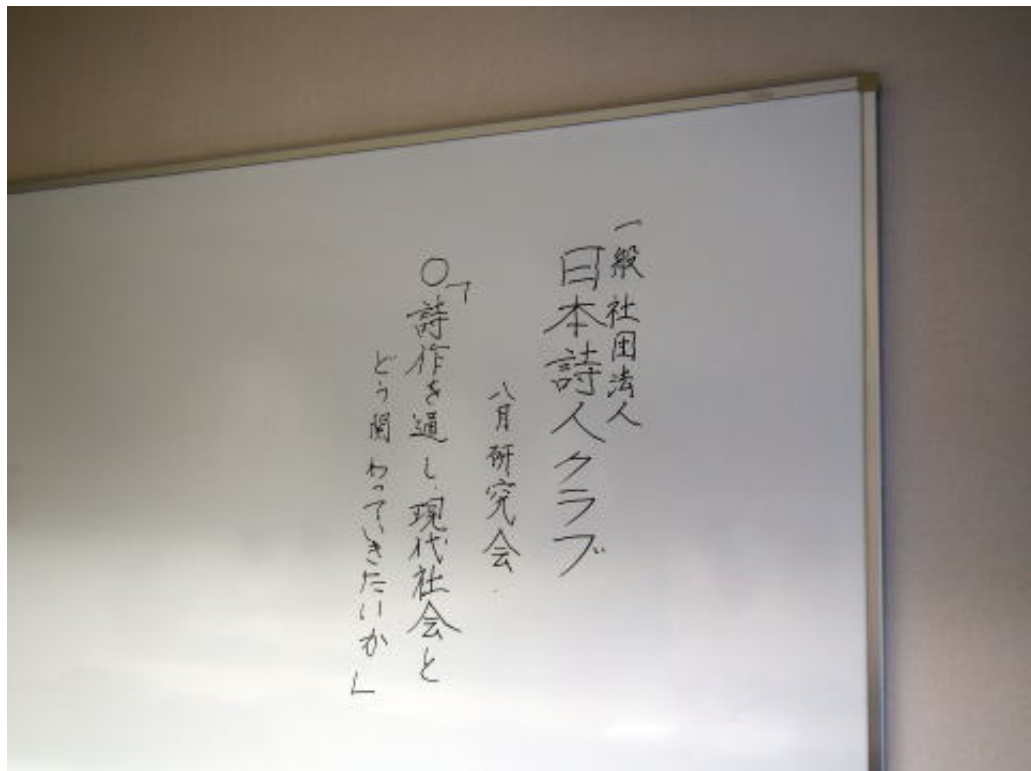
夏の研究会

日 時 8月2日 15:30～17:30

場 所 東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム1

懇談テーマ 「詩作を通し現代社会とどう関わっていききたいか」

参加費 会員・会友 無料 一般500円





昨年の研究会同様、参加者おひとりおひとりの談話形式による研究会となりました。
今年は、
懇談テーマを設けました。「詩作を通し現代社会とどう関わっていきたいか」。この設
問は、機関
誌『詩界』261号のアンケート設問でもありました。
自らの戦争体験を語る方。電話オペレーターという仕事を通し、言葉によるコミュニ

ケーション

の難しさを語る方。東日本大震災の体験から、言葉による表現の限界を痛感したという方。SNS

（ソーシャルネットワーキングサイト）を使って名詩の紹介を実践している方。教員時代に、教え子

の不登校に接し、未成年者の心の傷に思いを馳せる方。云々。

人と社会との関わりは、実にさまざまです。皆さんのお話を聞ながら、あらためて「言葉」というも

の大切さを実感した次第です。「人から出ていくものが、人を汚す」という参加者の談話がありまし

た。言葉は、その最たるものなのかもしれませんね。もちろん、その逆もまた然り。

（長谷川忍・記）

第28回 詩のサロン

日 時 8月14日（木） 18：00～20：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の朗読と観賞会 戦争詩、原爆詩（峠三吉、原民喜、池田ソメなど）の作品鑑賞と朗読

参加費 500円





8月の詩のサロンは、毎年、戦争詩、原爆詩を特集します。

サロンの冒頭、まず戦没者の方々への1分間の黙とう。その後、参加メンバー4氏（小野浩、宮本苑生、奥出實、比留間一成）による自作の戦争詩の朗読が行われました。比留間一成氏

によるワンポイントレッスンは、氏の戦争体験談です。戦争とは、嘘のかたまりでできている。戦

争そのものを否定しないかぎり平和は来ない。利他主義、つまり平和のために詩を書く。それが

詩人の務めに繋がっていく。比留間氏の言葉には説得力がありました。

休憩の後、吉永小百合さんによる原爆詩の朗読鑑賞CDを聴。林幸子、栗原貞子、池田ソメ、

大平数子小園愛子、原民喜、各氏の詩作品が、吉永さんの声で語られました。原民喜氏の作品

は、CD鑑賞に続いて、参加メンバーの原詩夏至詩氏が「原爆小景」の各作品を朗読。原氏の迫

力のある朗読に一同圧倒された次第。

また、この日出席された鈴木比佐雄氏による戦争詩、原爆詩に関しての解説も、興味深いもの

がありました。

（長谷川忍・記）

第8期 詩の学校（前期）

日 時 8月23日（土） 14：00～16：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

講義「詩と詩人」 講師 齋藤 貢

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講 2,000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉県花見川区畑町1799-4 TEL・FAX043-274-3263（携帯090-1804-2276）

講師の齋藤貢先生より、「詩と詩心～詩を生む言葉について～」をテーマにお話を頂きました。

星野徹氏の詩論についてお話された後、星野徹氏、粕谷栄市氏、武子和幸氏、菊田守氏、会田

綱雄氏、三井葉子氏、その他多くの詩人の作品、そしてご自身の作品について、先生が自ら朗読

されながら、奥深い内容を分かりやすくご講義して頂きました。東日本大震災でのご経験について

も触れられ、静かな語り口とともに、参加者全員の心に深く感銘を与えてくださるご講義でした。

（森雪拾・記）

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年9月

第29回 詩のサロン

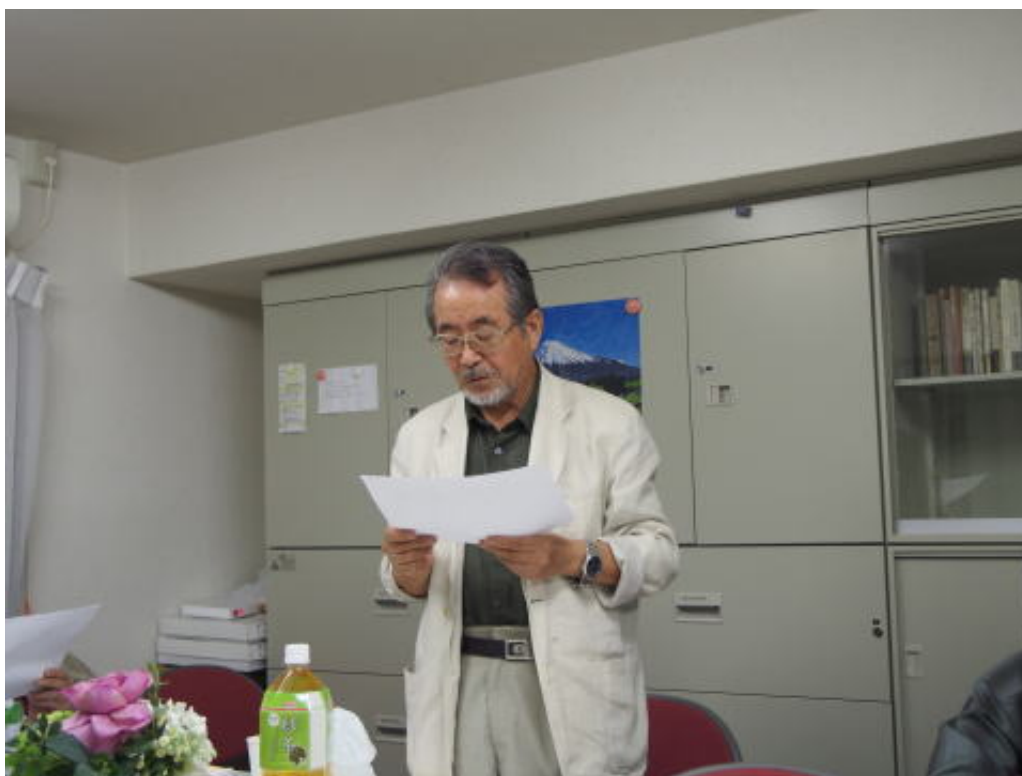
日 時 9月11日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩の朗読と観賞会 「石垣りん、高良留美子の世界」の作品鑑賞

と朗読

参加費 500円



古屋久昭氏



9月の詩のサロンは、山梨県詩人協会会長でいらっしゃる古屋久昭氏が駆けつけてください

ました。まず、古屋氏に、スピーチと自作詩の朗読を頂いて後、本題の作品鑑賞と朗読に移り

ました。

今月は、石垣りん、高良留美子、両女流詩人の作品鑑賞です。共に、戦争をテーマに

した作

品に優れたものが多かったように思いました。石垣作品では、「崖」「弔詞」、高良作品では「戦争がおわると」「戦争の死者」。女性の視点ならではの力作と言えるのではないのでしょうか。参加者による両作品の朗読にも、その気持ちがこもっていたようです。

(長谷川忍・記)

9月例会

日 時 9月13日(土) 14:00～17:00

会 場 東京大学駒場キャンパス ファカルティハウス・セミナールーム

詩朗読&スピーチ 華原倫子氏(甲府市) 詩集『水の国ーウォーターランドー』『樹霊』ほか。

畠山隆幸氏(佐久市) 詩集『浅間山』『晴れた青空に』ほか。長野県詩人協会所属。

講 演 『ふるさと村野四郎の詩の背景ー村野四郎記念館の10年』 講師・馬場治子氏

講 演 『わたしの村野四郎と「詩」ー人間存在と美意識』 講師・菊田守氏

* 2月例会が大雪のため中止(延期)となりました。9月例会を同一企画で実施します。

同会場にて例会終了後・懇親会 17:00～19:00 会費3,000円



司会 安川登紀子氏（左） 長尾雅樹氏（右）



幸氏（詩朗読）

華原倫子氏（詩朗読）

畠山隆



馬場治子氏（講演）



菊田 守氏（講演）



村野晃一氏



会場風景

9月例会は、大雪のために中止となった2月例会の半年繰り下げての実施となりました。心待ち

にされていた方々も多かったのではないかと拝察します。

村野四郎氏をテーマに、馬場治子、菊田守、両氏に講演をいただきました。村野氏の郷里でもあ

った東京都府中市の「府中市郷土の森博物館」の学芸員でいらした馬場氏の、府中という土地を背

景にした村野四郎像は興味深いものがありました。菊田守氏は、長きにわたる村野氏との交流を、

ユーモアを交えて語ってくださいました。とくに、村野氏からいただいた「菊田さん、誰に何と言われよ

うと小動物の詩を書き続けなさいよ」というアドバイスは、現在も菊田氏の大切な心の支えになってい

ようでした。この日は、村野四郎氏のご子息でいらっしゃる村野晃一氏も会場にお見えになり、スピー

チを頂戴しました。

(長谷川忍・記)

第8期 詩の学校（前期）

日 時 9月27日（土） 14：00～16：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

詩評・受講者の作品 講師・山本みち子氏

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講 2,000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉市花見川区畑町1799-4 TEL・FAX043-274-3263（携帯090-1804-2276）

9月27日の詩の学校では、「伝えること」「伝わること」とは？、をテーマとした、詩の合評

会が行われました。参加者の提出した20編ほどの詩について、それぞれ活発な意見が
交わさ
れました。一つひとつの作品に込められた作者の思いや考えについて理解しながら、
様々な視
点で行われた批評はとても有意義なものとなりました。参加者全員が熱心に取り組
み、予定時
間も超えることも忘れるほどの充実した会となりました。

(森 雪拾・記)

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年10月

第30回 詩のサロン

日 時 10月9日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

第30回詩のサロン記念講演

「現代詩のこれからのあり方」 講演 比留間一成氏

参加費 50

0円



比留間一成氏



土濱純代氏





国際交流カリブ2014 文化の復興力ーその逆転のダイナミズム

日 時 10月11日(木) 講演と朗読、ディスカッション 13:30
～16:50

演奏会 17:00～17:30

記念パーティー 17:50～19:30

0

会 場 東京大学駒場キャンパス 21 COMCEE 演奏会・記念パーティー
同MMホール

【第一部】 講演と朗読 司会 八覚正大・水嶋きょうこ

開会式 : 開会の辞 川中子義勝理事長

歓迎の言葉 細野豊会長

祝辞 リカルド・アリコック氏 駐日ジャマイカ大使 財部
鳥子氏 日本現代詩人会会長

講師紹介 谷口ちかえ 国際交流担当理事

基調講演と朗読 エドワード・ボウ博士「英語圏カリブの詩—
原動力となる文化の力」

ボウ作品朗読 「ときに話の途中で」「家」 朗読 ノーマ
ン・マンロー氏 和訳朗読 秋山公哉氏

【第二部】 ディスカッションと詩朗読

東北の声 基調スピーチと詩の朗読 齋藤 貢氏

Q&Aとディスカッション 「カリブに学ぶ・カリブ詩に学ぶ」

スティール・パンのモデル演奏 マイケル・マニッシュ・ロビ
ンソン氏

日本在住のジャマイカ詩人たちによるカリブ代表詩および自作詩
の朗読

デイブ・コリモア氏 ビアンカ・ベイリー氏 パーネイス・
モリソン氏 ノーマン・マンロー氏

閉会の辞 北岡淳子（理事）

【演奏会】

カリブ発祥の民族楽器 スティール・パンの演奏 マイケル・
マニッシュ・ロビンソン&ソニックス東京

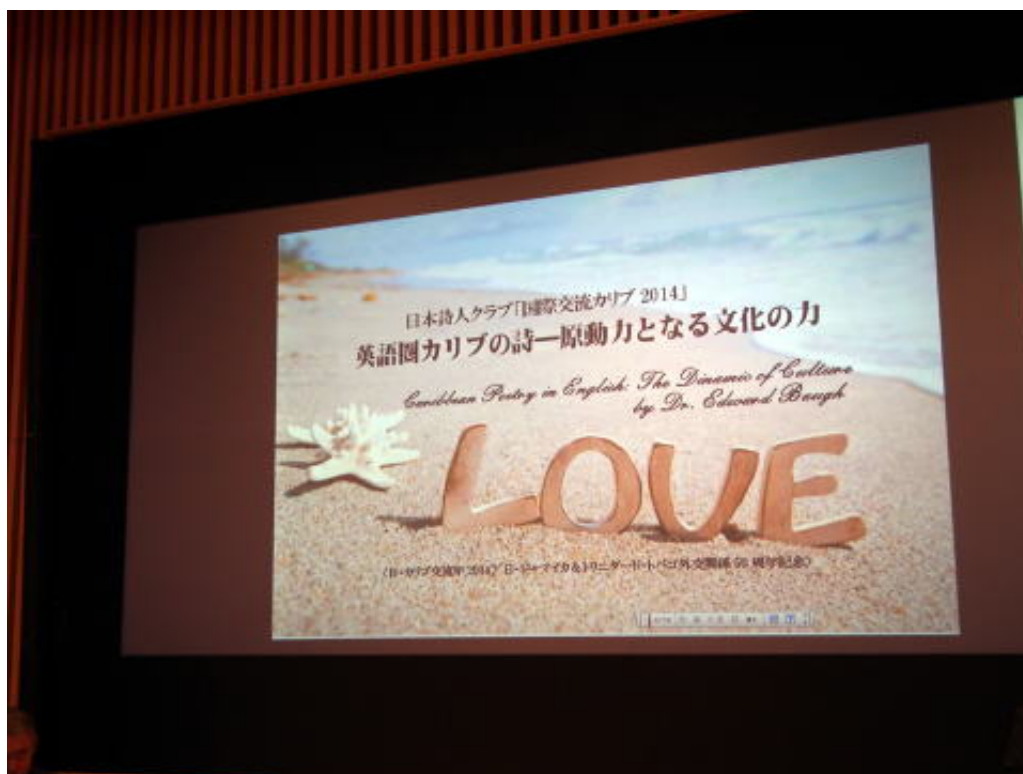
【記念パーティー】

開会の辞 中原道夫氏 前国際交流担当理事

乾杯と挨拶 比留間一成氏

スピーチ 北畑光男氏 日本現代詩人会会長 他

閉会の辞 禿 慶子(理事)



司会 八覚正大氏（右） 水嶋きょうこ氏（左）



川中子義勝理事長（開会の辞）



細野 豊会長（歓迎の言葉）



リカルド・アルコック駐日ジャマイカ大使（祝辞）



財部鳥子日本現代詩人会会長（祝辞）



谷口ちかえ国際交流担当理事（講師紹介）



エドワード・ボウ博士（基調講演と朗読）



「英語圏カリブの詩—原動力となる文化の力」と題したボウ博士の講演は、黒人の奴隷制
 度等過酷ともいえるカリブ諸島の歴史を背景に、人種や文化の多様性の中から育まれて
 き
 たカリブ詩についての魅力を繊細に語っていただきました。詩は、やはり、人にとって
 の普遍
 的な魂の部分を抱えているのだと思います。とくに、レゲエ歌手ボブ・マーリーの
 「詞」にカリ
 ブ詩のひとつの原点を見つめようとするボウ博士の視点に引き込まれました。



ノーマン・マンロー氏（左） 秋山公哉氏（右）（ボウ作品朗読）



齋藤 貢氏（基調スピーチと詩の朗読）

齋藤貢氏のスピーチは、エドワード・ボウ博士の講演と対をなすものだと拝聴しつつ
思いました。

た。東日本大震災当時、東北の中学校の校長をされていたという齋藤氏は、震災で、た

くさん

の苦い体験を積みます。津波に流された女生徒が、長い漂流の末に奇跡的に助かったという

話は、体験者としての実感に満ちていました。会場で朗読された「この日、小高で」という氏の

詩作品は、先の女生徒の姿と重なり、ひととき、大震災の恐ろしさをあらわにされていました。



エドワード・ボウ博士（Q&A・ディスカッション）



マイケル・マニッシュ・ロビンソン氏（スティー・パン演奏）

アカデミックな雰囲気にもまれていた会場がここで一気に盛り上がりました。スティー・パンの音色が、会場をカリブに誘い込みます。



ノーマン・マンロー氏（詩の朗読）



パーネイス・モリソン氏（詩の朗読）



ビアンカ・ベイリー氏（詩の朗読）



デιβ・コリモア氏（詩の朗読）



四氏は、在日ジャマイカ詩人。「Writers' Bloc, Tokyo」として、東京、原宿他を拠点に、月例朗読ライブや、各種イベントなどを意欲的開催されているそうです。



会場風景



北岡淳子理事（閉会の辞）



東京大学駒場キャンパス MMホール



マイケル・マニッシュ・ロビンソン&ソニックス東京（スティールパン演

奏)



レゲエのリズムは、いいものですね。演奏を聴いているうち自然と身体が動いてしまいます。

演奏を聴きながら気持ちよさそうに身体を揺すっている方を幾人か見かけました。記念パーティー

ティーも含め、有意義な国際交流となりました。

(長谷川忍・記)

第8期 詩の学校（後期）

日 時 10月25日（土） 14：00～16：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

講義「詩の方法」 講師・諫川正臣氏

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講 2,000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉県花見川区畑町1799-4 TEL・

今回の詩の学校では、校長の諫川正臣氏による、テーマ「推敲の視点、自分の作品を厳しく

推敲するには」についてのご講演でした。最初に推敲の視点について説明して頂いた後、実際

の作例を読みながら、参加者全員で推敲し様々な視点による意見を述べ合いました。参加者が

これからの詩作をより良いものとする事ができる学びについて、多くを得る事ができました。

（森 雪拾・記）

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年11月

11月例会

日 時 11月8日(土) 14:00～17:00 会員・会友無料
一般500円

会 場 東京大学駒場キャンパス 21KOMCEEレクチャーホール

京王井の頭線「駒場東大前」駅下車、正門右手3分。 TEL03-5790-5931 レストラン呼び出し

例会終了後、隣接のMMホールにて交流会（懇親会）があります。会費3,000円

朗読&スピーチ 大林美智子氏（仙台市） 出雲筑三氏（所沢市）

第24回日本詩人クラブ新人賞受賞記念小講演

「わたしの詩法」一詩を学ぶこと、詩に学ぶことー 講師 中島真悠子氏

第14回日本詩人クラブ詩界賞受賞記念講演

「金子光晴「寂しさの歌」の問いを、自らに課した戦後詩人達」
講師 坂本正博氏



司会 長尾雅樹氏（左） 川崎芳枝氏(右)



大林美智子氏（朗読）

出雲筑三氏（朗読）



中島真悠子氏（講演）

「私の詩作法」一詩を学ぶこと、詩に学ぶこと



坂本正博氏（講演）
「金子光晴「寂しさの歌」の問いを、自らに課した戦後詩人達」



懇親会風景

11月の例会は、今年度の日本詩人クラブ新人賞、日本詩人クラブ詩界賞を受賞された、中島真悠子、

坂本正博、両氏の記念講演でした。お二方とも、受賞著書を紐解きながらの講演となりました。中島氏

は、自らの生き立ちと詩作との出会いを、受賞詩集からの朗読を交え繊細に語って下さいました。「詩

は、日常の生活に埋もれがちの中で、心の豊かさに気づかせてくれる。心の中のアルバムのようなもの」

という言葉が印象に残っています。坂本氏は、金子光晴の長編詩「寂しさの歌」の根底に潜む情感を縦

横に考察しつつ、金子詩の継承者ともいえる、金井直、頼圭二郎、原満三寿、三氏の作品世界を独自の

切り口でご紹介くださいました。この日は、頼圭二郎氏が会場にお見えになり、坂本氏よりご紹介をいた

だきました。

会員による朗読とスピーチは、大林美智子、出雲筑三、両氏。懇親会も含め、和やか

な例会となりました

た。日が短くなりましたね。懇親会の始まった午後5時過ぎには、もう外は真っ暗でした。

(長谷川忍・記)

第31回 詩のサロン

日 時 11月13日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

名詩の鑑賞と朗読 「民衆詩派・白鳥省吾、福田正夫の世界」

参加

費 500円





山田伊知朗氏（左）

土濱純代氏（右）



11月の詩のサロンは、民衆詩派の中心にいた、白鳥省吾、福田正夫、二人の詩人の朗
 読、
 作品鑑賞でした。文語体で芸術色の強かった詩を、口語、日常語に置き換え、現実を描く
 こ

とにウエートを置く。福田正夫の『農民の言葉』（大正5年）、百田宗治の『一人と全体』（大正5年）、富田碎花の『地の子』白鳥省吾の『大地の愛』といった詩集がそのはしりだったそうです。当時の詩壇からは批判も多く出たようですが、ひとつの「変革」といっていかもしれません。

白鳥省吾作品からは、「戦争の追懐」「世紀の審判」「敗戦の日本」等、戦争を扱った詩を中心に鑑賞しました。日露戦争後、次第に暗い時代へと進んでいく中、こういう戦争批判詩を書くことは勇気がいることだったと思います。福田正夫作品からは、「農民の言葉」「黒い土」「母性」等、農民、ひいては民衆をうたった詩を鑑賞しました。農夫の姿に寄り添うような眼差しが印象的でしたね。二人の功績を称え、白鳥省吾賞、福田正夫賞という詩の賞が設けられています。この日は、白鳥省吾賞を受賞された花潜幸氏、福田正夫賞を受賞された、塩野とみ子氏、渡ひろこ氏にもサロンにご参加いただきました。

サロンの合間に、12月の詩のサロンコンサートに出演いただくソプラノ歌手の土濱純代氏、そして山田伊地朗氏から、2曲、歌をご披露いただきました。

（長谷川忍・記）

第8期 詩の学校（前期）

日 時 11月22日（土） 14：00～16：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

講義「詩と詩人」 講師・柳生じゅん子氏

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講 2,000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉県花見川区畑町1799-4 TEL・
FAX043-274-3263 (携帯090-1804-2276)

今回の詩の学校は、講師の柳生じゅん子様により、「詩を読む喜び」をテーマとして講義して
いただきました。複数の詩を丁寧に読みながら、一つひとつの作品について理解を
深めると
ともに、詩を読む喜びについて改めて知ることができたように思いました。

(森雪拾・記)

(社)日本詩人クラブ例会・イベント 2014年12月

12月例会・忘年会

日 時 12月6日(土) 14:00～17:00 会員・会友
無料 一般500円

忘年会 17:00～19:00 会費 4,000円

会 場 東京大学駒場キャンパス ファカルティハウス・セミナール
ム

京王井の頭線「駒場東大前」駅下車、正門左手3分。

詩朗読 打出祥子氏(足立区)、川崎芳枝氏(横浜市)、曾我貢誠氏
(文京区)、高島りみこ氏(中野区)、

原詩夏至氏(中野区)、宮本苑生氏(調布市)、森雪拾氏
(世田谷区)、やじままり氏(中野区)

講 演 『詩と写真の狭間に立つて』 講師 薬師川 虹一氏

第31回 詩のサロン

日 時 11月13日(木) 18:00～20:00

場 所 日本詩人クラブ事務所

ミニオペラコンサート&合唱会(会費1,000円)

「世界の歌・オペラアリアの世界」

ソプラノ歌手 土浜純代氏

(経歴) 東京音楽大学声楽家卒業・日本オペラ振興会

オペラ歌手

PTNA・日本ショパン協会・日本声楽家協会

他、会員





土浜純代氏



山田伊知朗氏



12月の詩のサロンは、オペラ歌手の土浜純代氏によるクリスマスコンサートが開かれました。

詩のサロンの参加者で、土浜氏と交流のある山田伊知朗氏とのご共演ですね。まず、コンサート

が始まる前、蘇我貢誠氏、永井冬生氏、お二方に、自作詩の朗読をご披露いただきました。

コンサートは、4部構成でした。第1部が、土浜純代氏によるソロ公演。第2部が、山田伊知朗氏によるソロ公演。第3部が、再び土浜氏によるソロ公演。第4部は、土浜、山田、両氏による共演です。曲目は以下の通り。

第1部、「Ave Maria」（グノー）「ロンドンデリーの歌」（アイルランド民謡）「アメイジング・グレース」（作曲者不詳）「私を泣かせて下さい」（ヘンデル）「我が母の教え給いし歌」（ドヴォルザーク）。第2部、「オーソレミオ」（ナポリ民謡）「家路・交響曲「新世界より」」（ドヴォルザーク）「カーロ・ミオ・ベン」（G・ジョルダニー）「グリーンスリーブス」（イングランド民謡）「赤いサフラン」（作曲者不詳）。第3部、「アリラン」（朝鮮民謡）「小さな木の実」（ビゼー）「アマポーラ」（J・M・ラカジェ）「愛の賛歌」（M・モノッ ト）「ユー・レイズ・ミー・アップ」（R・ラブランド）。第4部、「野バラ」（シューベルト & ウェルナー）「メリー ウィンドウワルツ」（レハール）「Ave Maria」（カッチーニ）。

土浜氏の声は伸びがありました。1曲、1曲、丁寧に歌われるお姿が印象的でした。第4部の山田氏との共演では、部屋の照明を落とし、クリスマスコンサートらしい雰囲気が漂っていたように思えます。贅沢な2時間でした。

（長谷川忍・記）

第8期 詩の学校（前期）

日 時 12月27日（土） 14：00～16：00

場 所 日本詩人クラブ事務所

閉校式 校長参加

詩評・受講者の作品 講師 新延拳氏

受講料 全講受講 10,000円（学生半額） 1回受講
2.000円 前期（3回）・後期（3回） 各6,000円

申込先 庄司進 〒262-0018 千葉市花見川区畑町
1799-4 TEL・FAX043-274-3263（携帯090-1804-2276）

第八期「詩の学校」の最終日では、新延拳先生と峯澤典子先生を講師として、大勢の受講者の皆様の内、提出して頂いた20作品についての詩評が行なわれました。1作品の詩評時間を多く取ることは出来ませんでした、

一つひとつの作品について、受講者の皆様から大変活発な意見とともに、講師の先生の適切な批評と進行によって、中身の濃い、とても充実した内容となりました。

（森 雪拾・記）